私たちが体験した台風第23号

台風の被害を受けて、キミたちの先輩は何を思ったか――
舞鶴市立岡田中学校でお話を聞きました。

協力し合うことの大切さ

舞鶴市立岡田中学校

左ページ 岩崎 綾美さん（左）、真下 美那さん（中央）、新宮 さつきさん（右）、
右ページ 永野 聖己さん（左）、真下 大平さん（右）

地域全体で困難を乗り越えられた

倒木で道がふさがれて学校のあるところまで出られず、宮津へ出て日用品を調達したりしていました。道は1か月ほど通行できませんでしたが、地域の人と協力し合って生活道路をつなげました。地域全体で困難を乗り越えられたと思います。

日ごろのあいさつでつながる行動

まる2日間停電して、電話も通じなかった。夜の雨はすごかったけど、朝まで学校の授業があると思っていました。日ごろのあいさつは大切。あいさつしているからこそ、そのとき「あそこはおばあちゃんの独り暮らし。様子見てくる」といった行動もとれたんだと思う。

家族で連絡場所や方法の確認を

床下まで浸水してきたので、電気製品などを2階へ持ってあがりました。翌朝、窓から外を見ると家は、濁流に取り巻かれている。両親はともに勤めに出ているのですが、その日はふたりとも帰ってこられなかった。家族で連絡場所や方法などを確認しておくことが大切だと思います。

被災をきっかけに始まった交流

宮津市立宮津小学校

小学校の前の大手川がはん濫し、校舎や校庭が1.5mも水浸しになりました。木津町立相楽小学校（現木津川市）からは図書や雑巾といっしょに、温かい励ましの手紙をいただき、その発表を児童たちが行いました。以来、それぞれの修学旅行の際には学校を訪問し合うなど、新たな交流が生まれています。城陽市立寺田小学校からも励ましの手紙をもらい、児童たちはかけがえのないものを得ました。

相楽小学校からの温かい励ましについて報告する児童

宮津小学校提供

10月20日夕方、学校横の岡田川がはん濫し、グラウンドに水が入りました。前を通る国道175号は通行不能となり、あと3cmほどで校舎に水が入る状態でしたが、翌日昼ごろには水が引きはじめました。当時小学校6年のみなさん（現在岡田中学校3年生）にお話を聞きました。

たくさんのボランティアの方に助けてもらった

国道がみるみる水没したときは「ヤバイ」と思いました。チャポンチャポンといいながら水が家の中に入ってきて、床上60cmのところまで来たときは「家が流される」と思って、すごくこわかった。ボランティアの人に助けてもらい、協力し合うことの大切さを学びました。

災害時の情報の大切さ

川の音が怖くて眠れませんでした。翌日、山の上へ水を汲みに行き、ガスコンロでご飯を炊きました。スイッチひとつでご飯が炊けるありがたさを改めて感じました。災害にあったときの情報の大切さを思い知りました。

当時の様子をつづった文集から

宮津市立上宮津小学校

上宮津小学校に通うみんなも台風第23号を体験し、文集「すぎやま」にその時の様子を書いています。

上宮津小学校提供

「うら山がくずれたぞう。とりあえず車庫にひなん!!」。いきなり言われて、何が何だかよく分りませんでした。車庫にひなんした時、どうしたらいいのかちょっとパニックになりかけたのを、お姉ちゃんが「だいじょうぶや」と言ってくれてホッとしました。
（４年　赤田詩歩さんの作文から）

午後五時、家の中にいると、「ズドドドドドト」なにかが落ちる音がした。川沿いの車庫を見に行くと、車庫が跡形もなく流されていた。そして、夕ご飯の準備をしていると、とつ然、電気がすべてきれてしまった。ろうそくやライトをつけて、ごはんを食べた。
（６年　落合晶也さんの作文から）